

1 半田市の現況

1-1 市の概要

(1) 半田市の位置づけ

本市は、名古屋市の南、知多半島のほぼ中心に位置しており、名鉄河和線とＪＲ武豊線の鉄道２路線により名古屋市と結ばれています。また、知多半島の各都市や名古屋市と連絡する知多半島道路や南知多道路、中部国際空港へ連絡する知多横断道路があり、半田中央ジャンクションにより自動車専用道路が交差しています。主要な道路としては国道２４７号、国道３６６号の２路線、県道は名古屋半田線、半田常滑線、碧南半田常滑線（衣浦トンネル）、西尾知多線等１３路線があります。また、古くから衣ヶ浦を背景とした海運業や醸造業等で栄えた臨海部には衣浦港が整備されており、陸・海・空の広域的な物流の利便性が高い都市となっています。

その他に半田税務署・名古屋地方検察庁・名古屋地方裁判所・名古屋法務局・半田警察署・愛知県知多総合庁舎・愛知県半田保健所等の国・県の施設や第3次救急医療機関である地方独立行政法人知多半島総合医療センターが立地しており、知多地域の中核的な都市として機能しています。

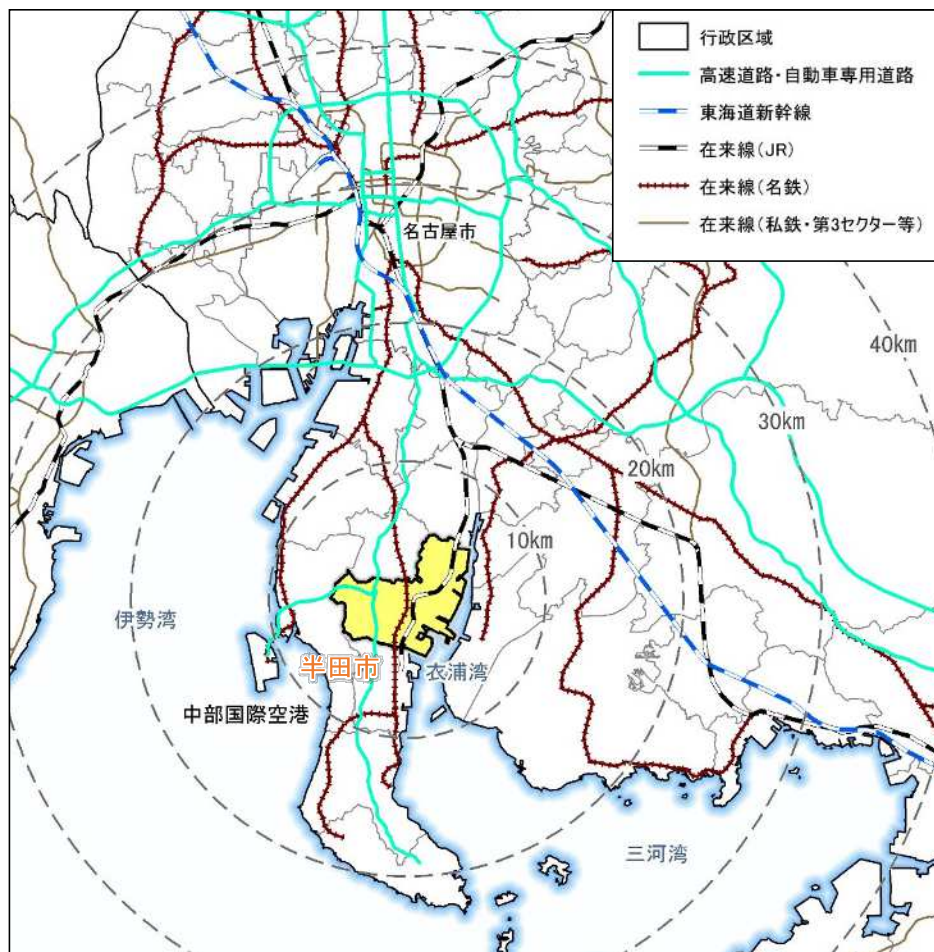


図 1 位置図

(2) 地形条件

至 名古屋市

至 中部国際空港

至 南知多町

知多半島道路

凡例

- 行政区域
- 市街化区域
- 鉄道駅
- 東海旅客鉄道
- 名古屋鉄道
- 自動車専用道路
- 国道
- 県道

水域

標高

- 90m
- 60m
- 30m
- 0m

亀崎駅

乙川駅

半田回駅

住吉町駅

知多半田駅

半田駅

成岩駅

青山駅

東成岩駅

0 1 2 4 km

資料：国土数値情報

1-2 人口・世帯

(1) 人口・世帯の推移

① 人口の推移

国勢調査による本市の人口の推移を長期的に見ると、図3に示すとおり、平成22年（2010年）頃がピークとなっています。国立社会保障・人口問題研究所による推計では、令和32年（2050年）には、令和2年（2020年）の117,884人から16,300人減少し、101,584人となることが予測されています。また、図4で示すとおり、平成27年（2015年）以降からこれまでの住民基本台帳の人口の推移を踏まえて本市が独自で実施した推計では、令和32年（2050年）の人口は100,300人と、いずれの場合も人口減少が進行することを予測しています。

年齢3区分別の人口を見ると、年少人口は、平成2年（1990年）から平成17年（2005年）までは概ね19,000人で推移していましたが、それ以降減少し令和2年（2020年）では15,269人となっており、今後も減少することが予測されています。生産年齢人口は、平成22年（2010年）までは増加していますが、その後減少に転じ、今後も減少することが予測されています。一方で、老年人口は増加しており、令和2年（2020年）で24.5%の高齢化率は、令和32年（2050年）には35.1%まで増加し、人口の3分の1以上が高齢者となることが予測されています。

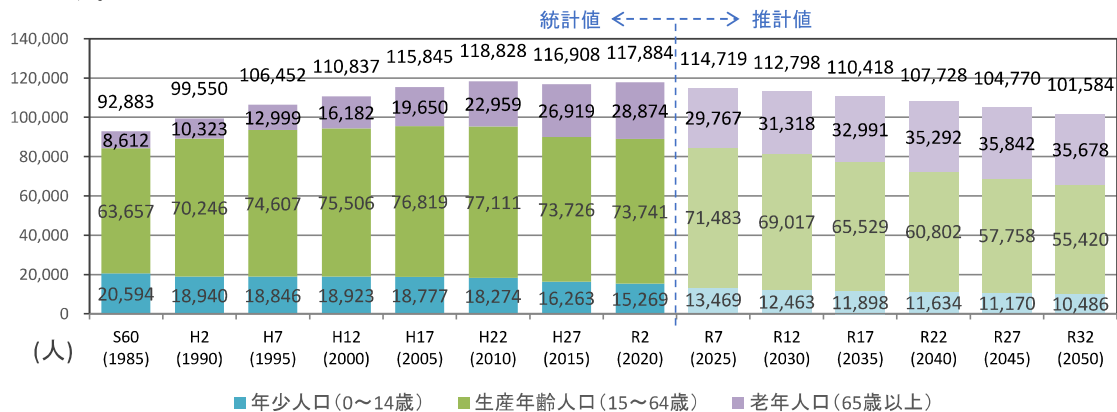


図3 人口の推移

資料：【令和2年以前】国勢調査
【令和7年以降】国立社会保障・人口問題研究所

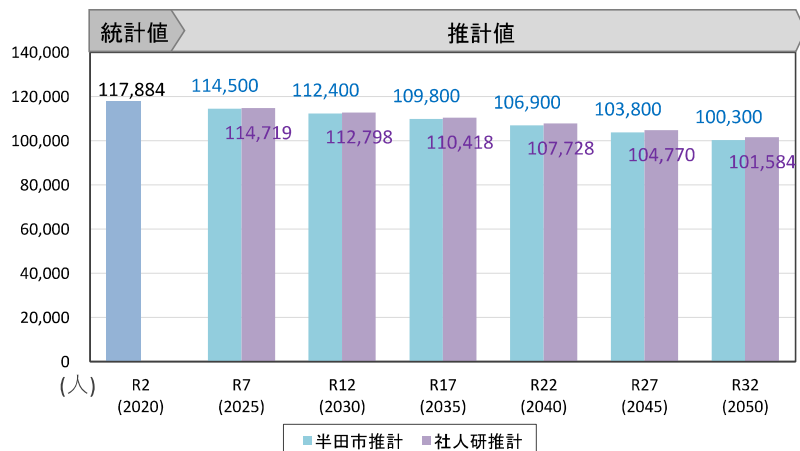


図4 社人研推計値と半田市推計値(令和2年（2020年）以降の人口推移を踏まえた推計)

Ⅱ 半田市の現況と都市づくりの基本的な課題

② 世帯数の推移

世帯数が増加している一方、1世帯当たりの人員は減少しています。また、高齢夫婦世帯・高齢単身世帯は共に増加していますが、特に高齢者単身世帯は、令和2年（2020年）では平成17年（2005年）の2倍弱に増加しています。

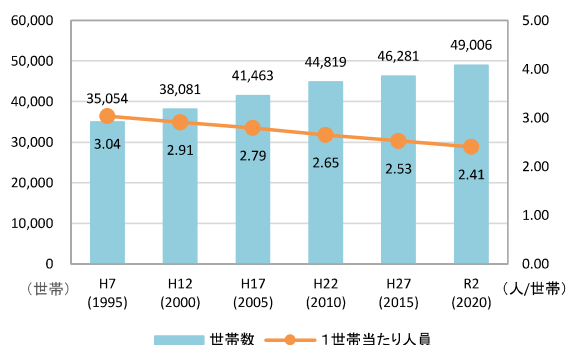


図5 世帯数の推移

資料：国勢調査

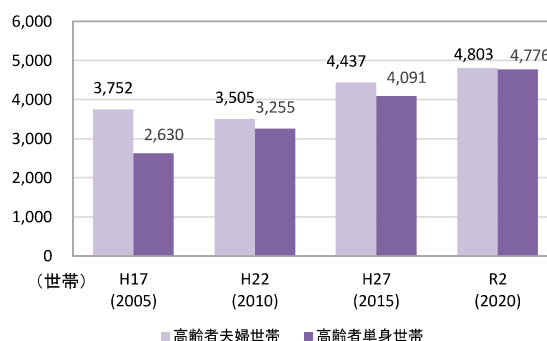


図6 高齢夫婦世帯・高齢単身世帯の推移

資料：国勢調査

③ 人口の増減

国勢調査が5年ごとの調査であり、調査の最新年次が令和2年（2020年）であることから、ここでは、住民基本台帳からの実績値により令和2年（2020年）以降の推移について人口の増減を把握します。本市の10年間の社会増減は、平成31年（2019年）まで転入超過となっていますが、令和2年（2020年）以降は転出超過となっています。自然増減は、平成27年（2015年）以降、減少傾向です。

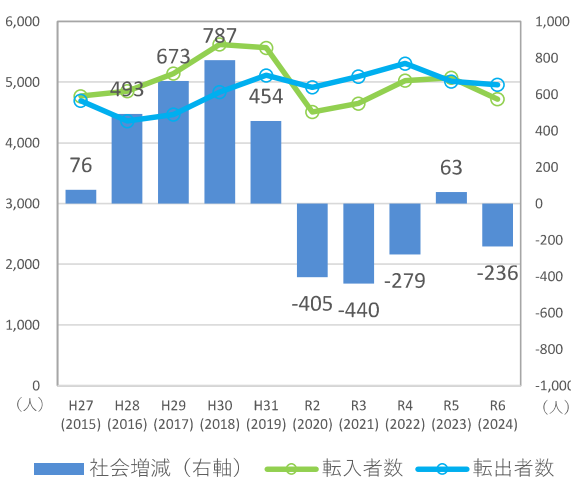


図7 社会増減の推移

資料：住民基本台帳

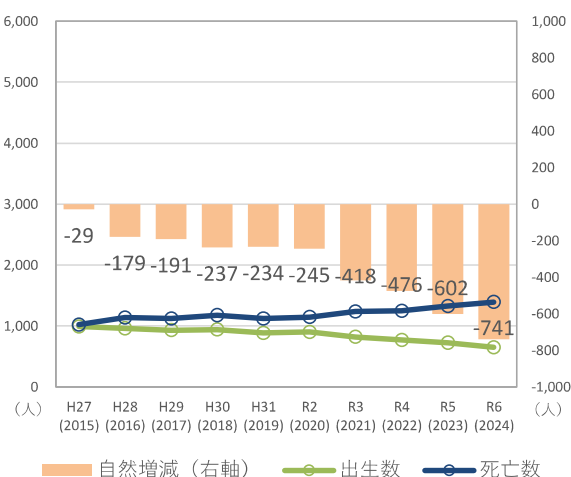


図8 自然増減の推移

資料：住民基本台帳

※社会増減：住民が市外に引っ越していったり、市外から引っ越してきたりすることによる人口の増減を言う。
市外へ出て行く人が多い状況を「転出超過」、市内へ入ってくる人が多い状況を「転入超過」と言う。
※自然増減：出生と死亡による人口の増減を言う。出生が死亡を上回る状況を「自然増」と言う。

④ 年齢別の社会増減

転入者・転出者とも20歳代、30歳代が多く、また、0歳から4歳の転入者・転出者も多くなり、就職や出産後の引っ越しによる移動が考えられます。

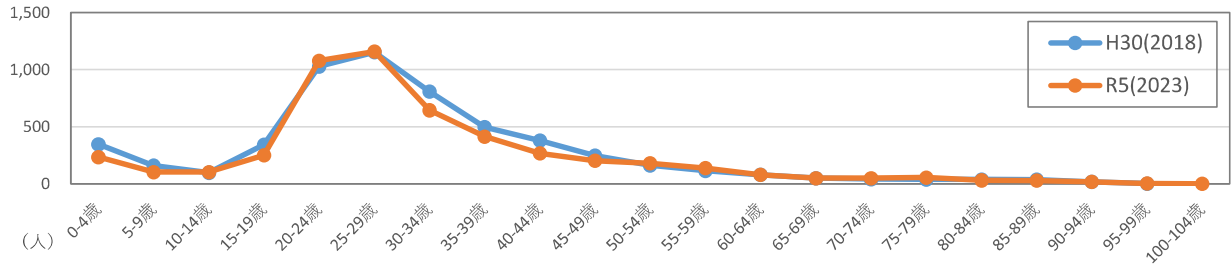


図9 年齢別転入者数の推移

資料：住民基本台帳

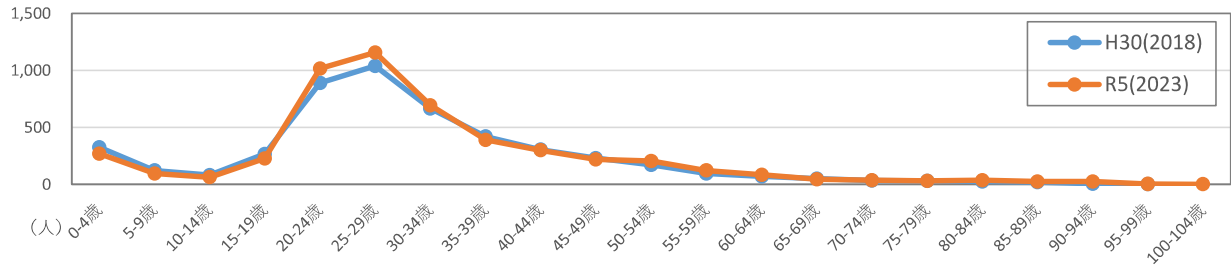


図10 年齢別転出者数の推移

資料：住民基本台帳

⑤ 社会増減の世帯特性

令和2年（2020年）の転入世帯と転出世帯の1世帯当たり人員を比較すると、ほぼ同じ数値となっています。

また、平成27年（2015年）の結果と比較すると、転出世帯の1世帯当たり人員が2.22人/世帯と複数人世帯の転出が顕著でしたが、令和2年（2020年）は1.25人/世帯と大きく減少しており、単身世帯の転出が増加しています。

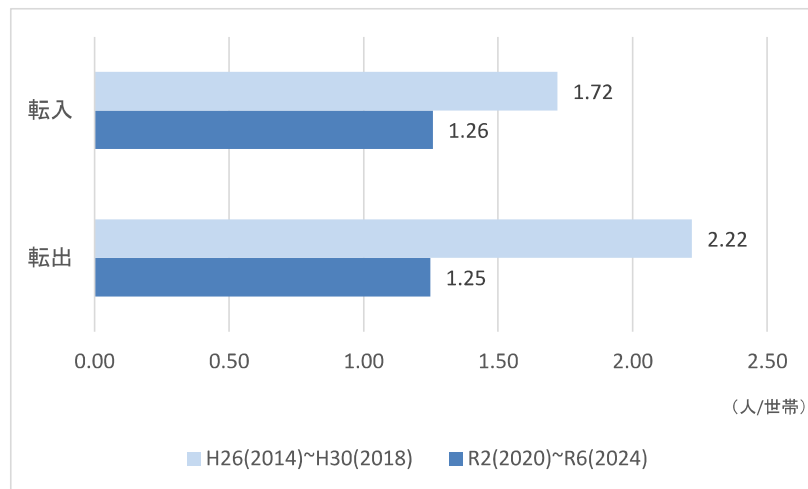


図11 転入世帯と転出世帯の1世帯当たり人員

資料：住民基本台帳

（平成26年（2014年）から平成30年（2018年）の5年間平均値および
令和2年（2020年）から令和6年（2024年）の5年間平均値の比較）

Ⅱ 半田市の現況と都市づくりの基本的な課題

(2) 人口分布

① 土地区画整理事業の実施状況

本市では、これまで16地区(793ha)で土地区画整理事業が完了し、2地区が現在施行中です。また、事業が完了した区域の半数が、完了後30年以上経過しています。

表1 土地区画整理事業一覧

区分	地区名	事業主体	施行面積 (ha)	施行年度	完了後経過年
施行済	① 半田	県	211.1	S17～S25	75年
	② 清城	組合	75.2	S42～S50	50年
	③ 白山桐ヶ丘	組合	24.5	S43～S51	49年
	④ 花園	組合	75.6	S44～S52	48年
	⑤ 住吉駅東	組合	1.6	S47～S53	47年
	⑥ 柊星崎	市	14.7	S50～S61	39年
	⑦ 乙川稗田	組合	6.7	S53～S61	39年
	⑧ 新居	組合	12.4	S55～S63	37年
	⑨ 乙川北部	組合	59.5	S54～H6	31年
	⑩ 東部	組合	84.4	S53～H9	28年
	⑪ 青山	組合	84.5	S55～H11	26年
	⑫ 西部	組合	119.2	S55～H12	25年
	⑬ 乙川畑田	組合	0.8	H13～H19	18年
	⑭ 平地北部	組合	4.1	H9～H20	17年
	⑮ 板山	組合	1.0	H21～H23	14年
	⑯ 知多半田駅前	市	17.7	H2～H27	10年
施行中	⑰ 半田乙川中部	市	47.5	H6～R14	—
	⑱ J R半田駅前	市	6.2	H29～R16	—

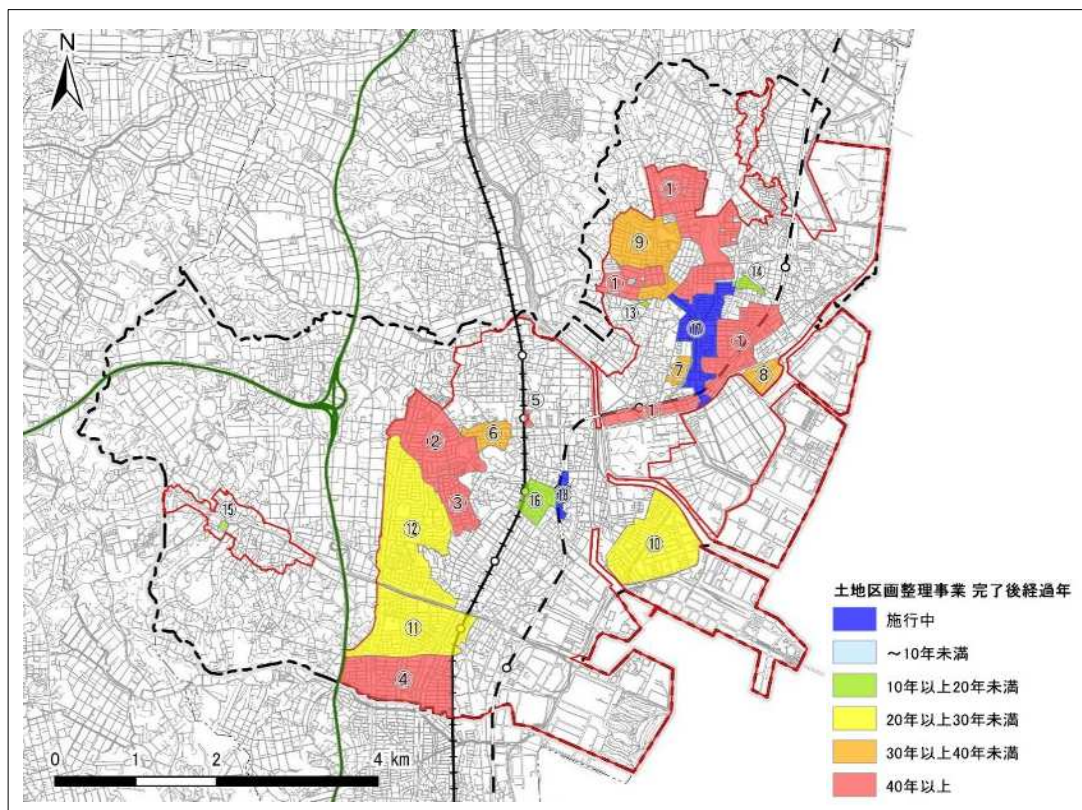


図12 土地区画整理事業 位置図

② 総人口の分布（500m メッシュ）

令和 2 年（2020 年）の総人口の分布を見ると、各鉄道駅周辺や土地区画整理事業区域等に集積しています。

平成 22 年（2010 年）から令和 2 年（2020 年）までの総人口の増減数を見ると、半田口駅東側周辺や土地区画整理事業が行われた半田乙川中部土地区画整理事業区域の周辺でまとまった人口増加が見られます。一方で、半田駅東側や乙川駅周辺、亀崎駅東側周辺等、鉄道駅周辺であっても人口が減少している地域があります。

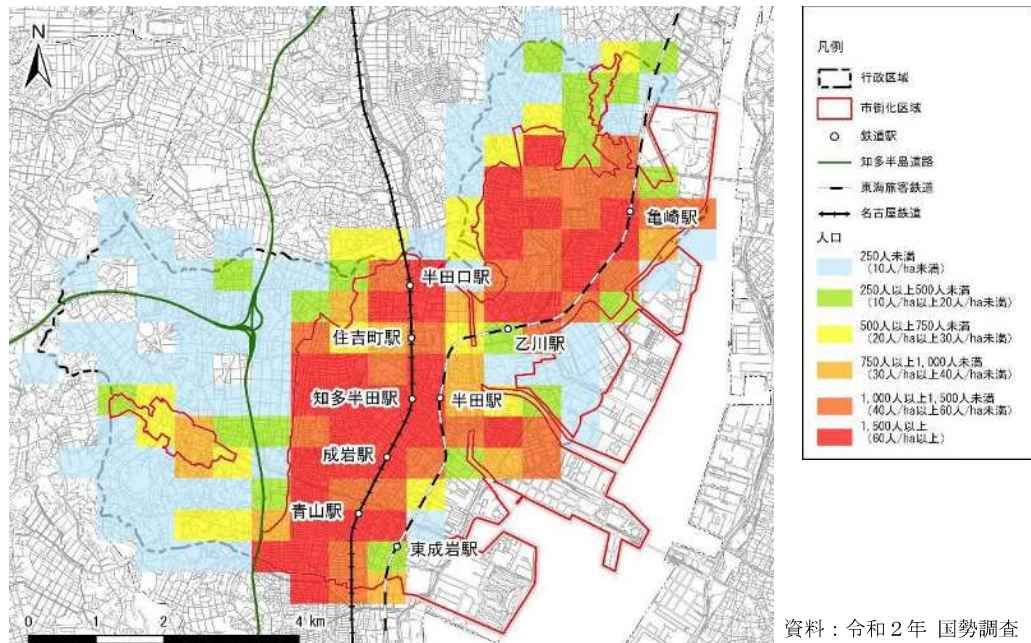


図 13 総人口の分布（令和 2 年（2020 年）：500m メッシュ）

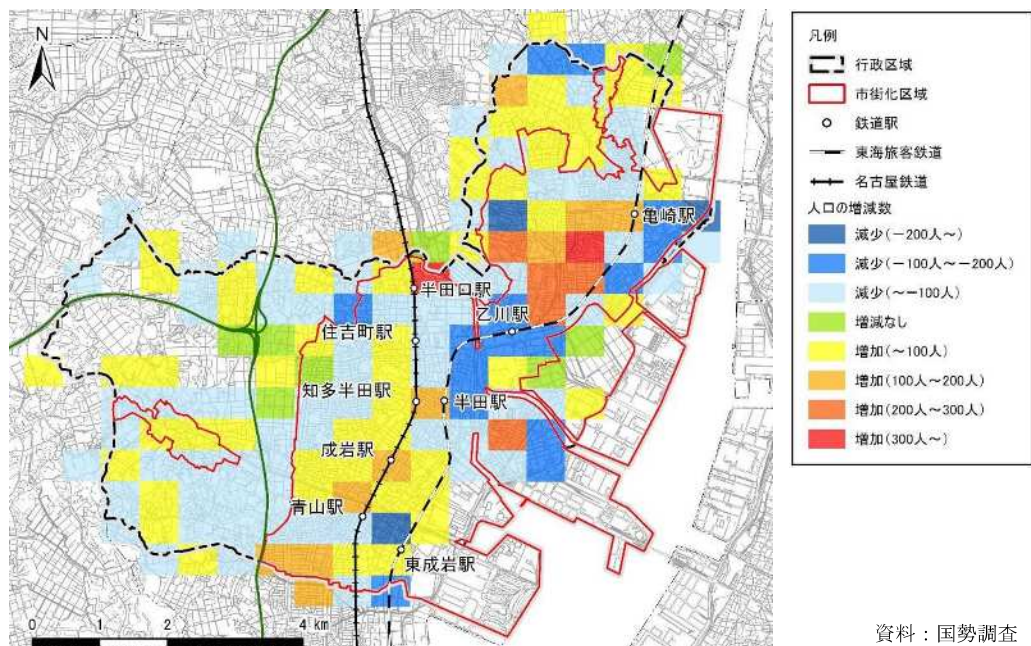


図 14 総人口の増減数（令和 2 年（2020 年）と平成 22 年（2010 年）の差）

Ⅱ 半田市の現況と都市づくりの基本的な課題

③ 年少人口（14歳以下）の分布（500mメッシュ）

令和2年（2020年）の年少人口の分布を見ると、亀崎駅周辺や半田、乙川北部及び名鉄河和線西側の土地区画整理事業区域に集積しています。

平成22年（2010年）から令和2年（2020年）までの年少人口の増減数を見ると、半田乙川中部土地区画整理事業区域の周辺でまとまった人口増加が見られますが、全体的には減少しています。

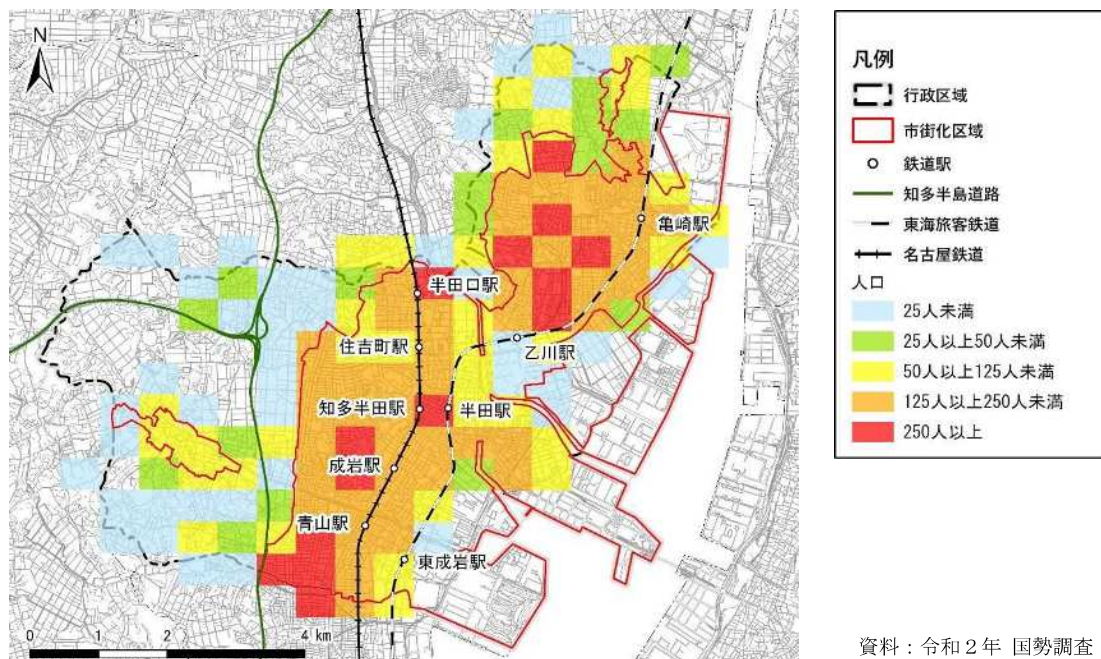


図15 年少人口の分布（令和2年（2020年）：500mメッシュ）

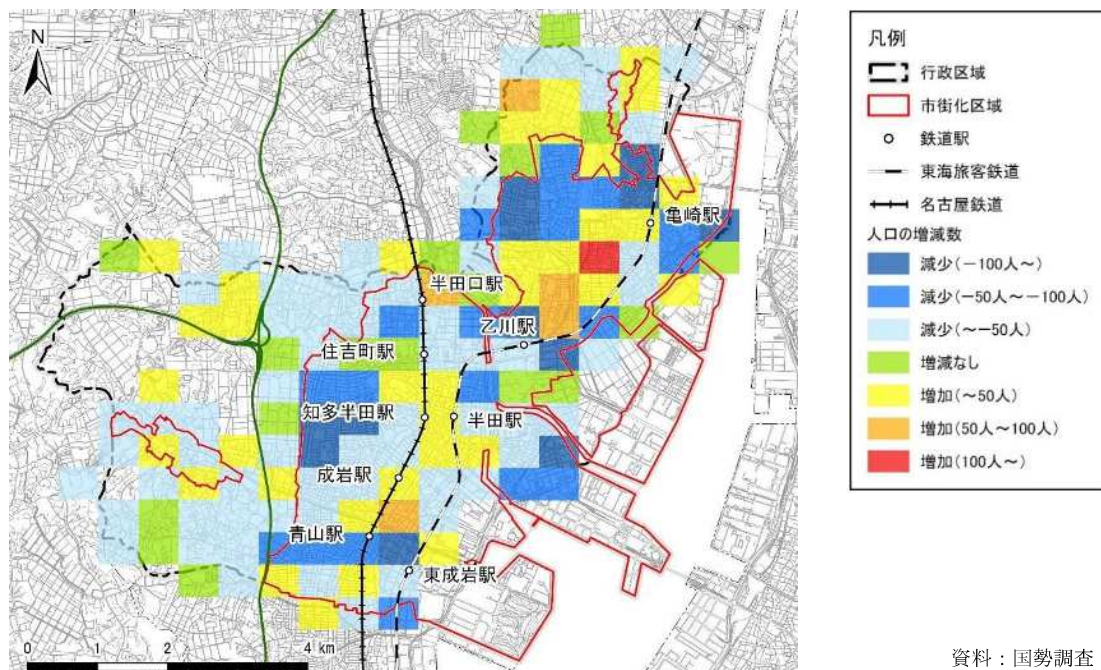
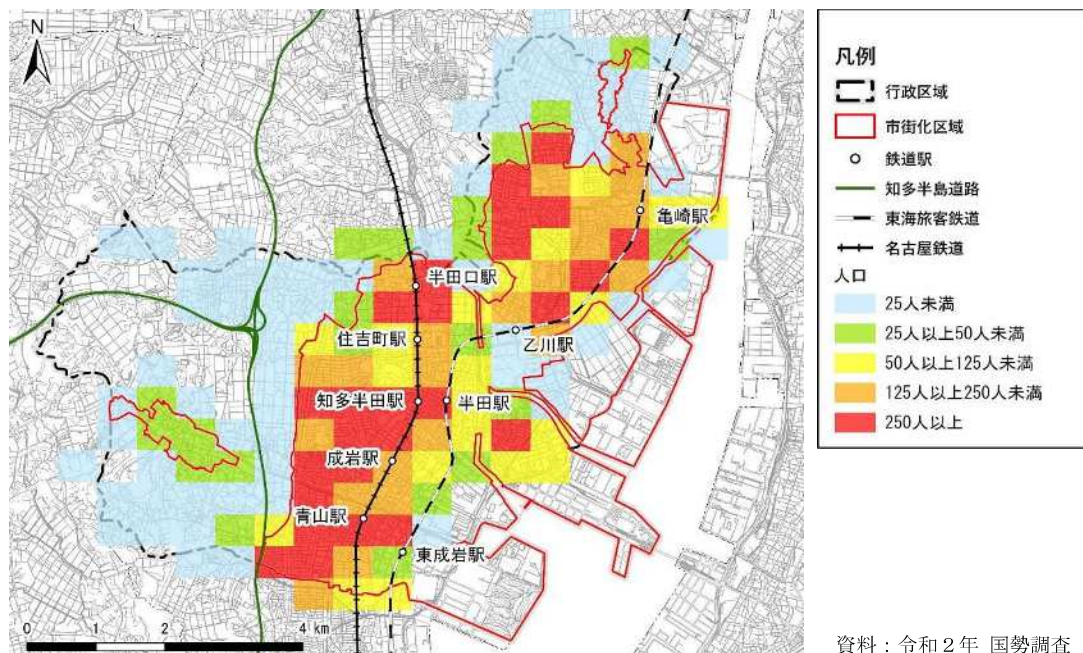


図16 年少人口の増減数（令和2年（2020年）と平成22年（2010年）の差）

④ 生産年齢人口（15歳～64歳）の分布（500mメッシュ）

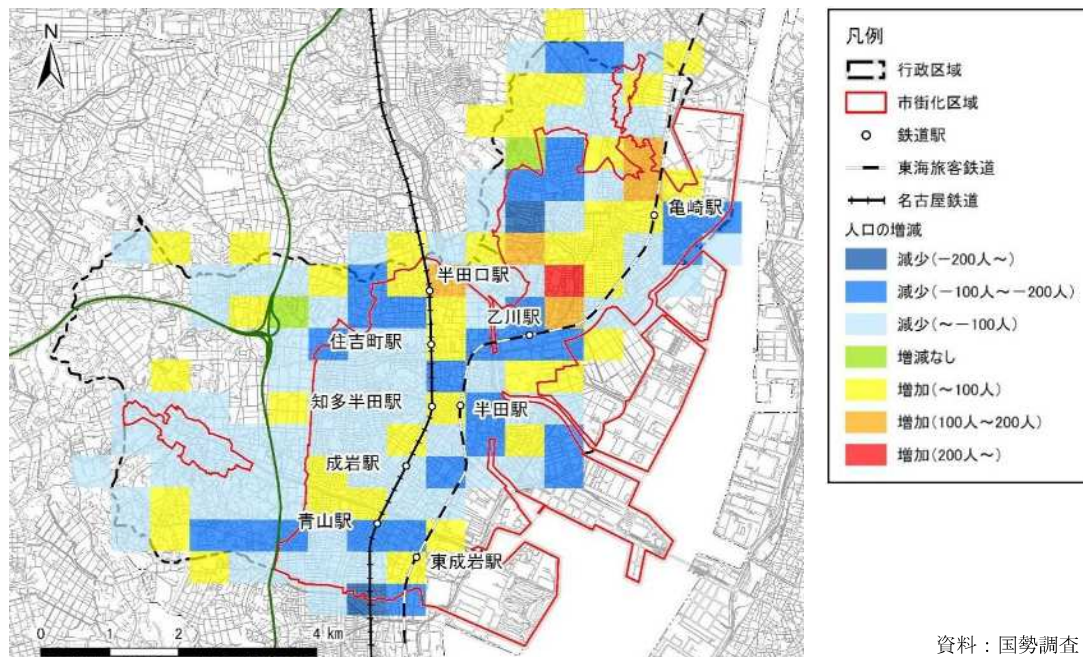
令和2年（2020年）の生産年齢人口の分布を見ると、各鉄道駅周辺や土地区画整理事業区域等を集積しています。

平成22年（2010年）から令和2年（2020年）までの生産年齢人口の増減数を見ると、土地区画整理事業が行われた半田乙川中部土地区画整理事業区域の周辺でまとまった人口増加が見られますが、全体的には減少しています。



資料：令和2年 国勢調査

図17 生産年齢人口の分布（令和2年（2020年）：500mメッシュ）



資料：国勢調査

図18 生産年齢人口の増減数（令和2年（2020年）と平成22年（2010年）の差）

Ⅱ 半田市の現況と都市づくりの基本的な課題

⑤ 老年人口（65 歳以上）の分布（500m メッシュ）

令和 2 年（2020 年）の老年人口（65 歳以上）の分布を見ると、鉄道駅周辺の市街地や半田土地区画整理事業区域等、比較的初期に住宅開発が実施された地域で多い状況です。

平成 22 年（2010 年）から令和 2 年（2020 年）までの老年人口の増減数を見ると、概ね全域で増加していますが、特に駅徒歩圏外にある半田乙川北部で 200 人以上のまとまった人口増加が見られます。

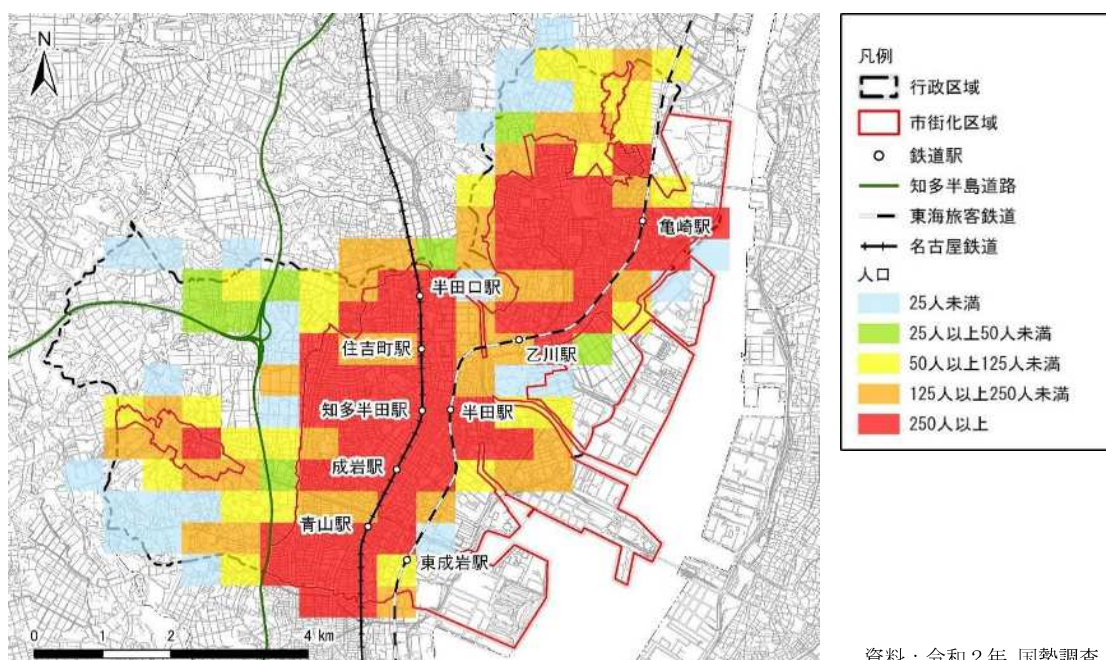


図 19 老年人口（65 歳以上）の分布（令和 2 年（2020 年）：500m メッシュ）

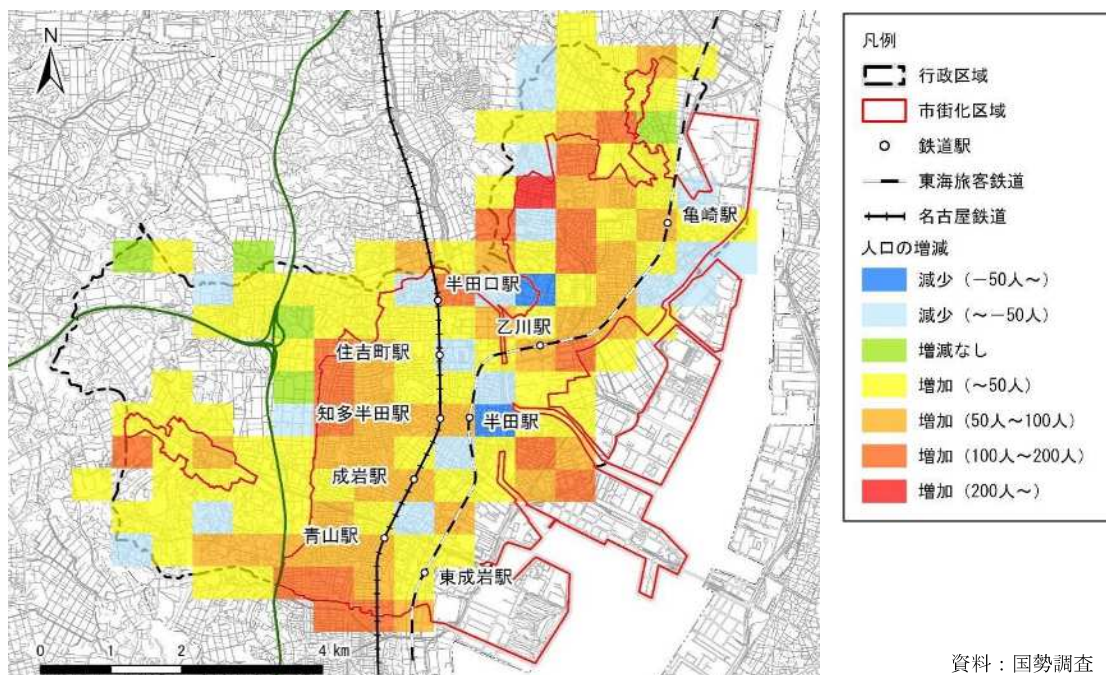


図 20 老年人口（65 歳以上）の増減数（令和 2 年（2020 年）と平成 22 年（2010 年）の差）

1-3 地域経済

本市の通勤・通学流動や、工業・商業・農業・観光に関する動向を整理します。

なお、いずれも新型コロナウイルス流行期間が含まれており、今後一定期間は、地域経済への影響が懸念されます。

(1) 通勤・通学流動

半田市に関連する通勤・通学流動を見ると、約半数の人が市内で就業・通学しています。

通勤の都市間の移動は、名古屋市のほか、常滑市や武豊町への流出が多くなっています。また、武豊町や常滑市、阿久比町といった周辺都市からの流入が多くなっています。通学は、特に、名古屋市への流出が多くなっています。

本市の自市内就業・通学率は52%であり、昼夜間人口比率は100.2となっています。

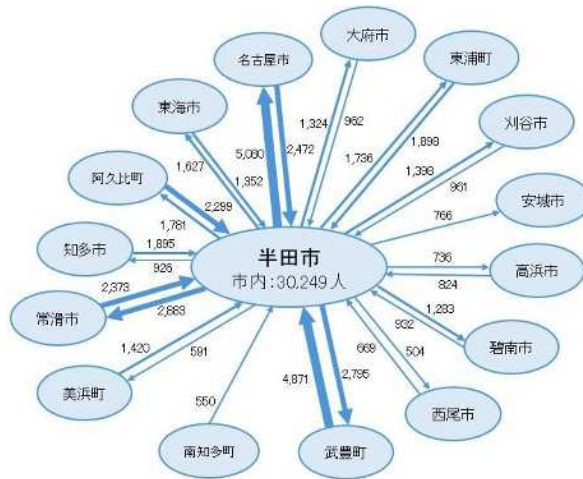


図 21 通勤流動（令和2年（2020年））

※500人以上の流動を表示
資料：令和2年 国勢調査



図 22 通学流動（令和2年（2020年））

※50人以上の流動を表示
資料：令和2年 国勢調査

表 2 半田市の通勤・通学流動

	合計	市内	流出	流入	流出－流入
通勤	57,994 人	30,249 人 (52.16%)	25,307 人 (43.64%)	26,271 人 (45.30%)	-964 人 (-1.66%)
通学	4,759 人	2,162 人 (45.43%)	2,784 人 (58.50%)	2,407 人 (50.58%)	377 人 (7.92%)
合計	62,753 人	32,411 人 (51.65%)	28,091 人 (44.76%)	28,678 人 (45.70%)	-587 人 (-0.94%)

※カッコ内の数値は、合計に対する割合。

資料：令和2年 国勢調査

Ⅱ 半田市の現況と都市づくりの基本的な課題

(2) 工業

本市の製造品出荷額等は、平成 20 年（2008 年）のリーマンショック以降概ね横ばい傾向となっていました。近年は増加傾向にあります。また、事業所数も減少傾向にあり、近年の 20 年間で減少していますが、従業者数は増加しています。

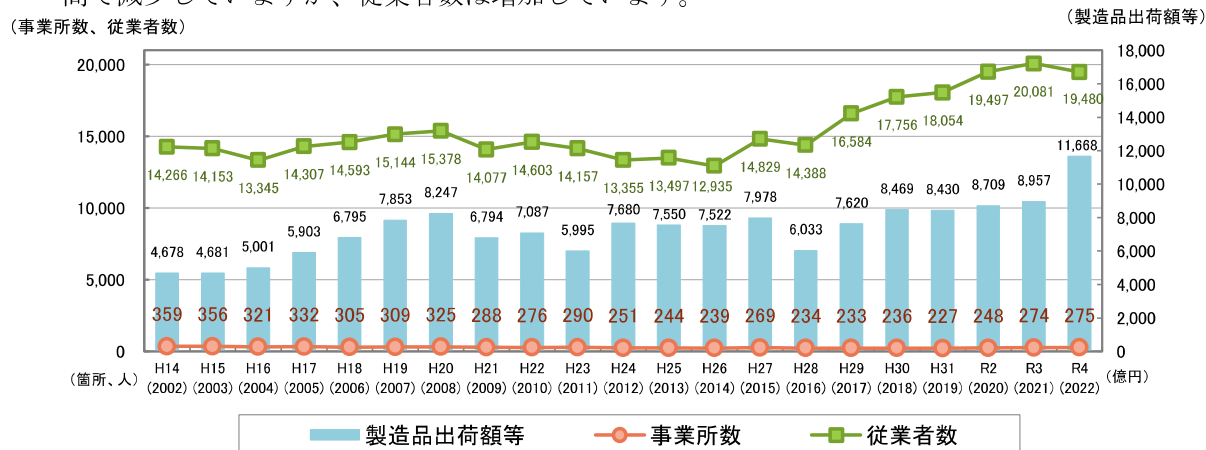


図 23 半田市の工業の動向

資料：(～平成 31 年) 工業統計調査、(平成 23 年・平成 27 年・令和 2 年) 経済センサス活動調査 (令和 3 年～) 経済構造実態調査

(3) 商業

本市の商品販売額、商店数、従業者数は、平成 20 年（2008 年）のリーマンショックの影響もあり、平成 24 年（2012 年）に減少していますが、それ以降は回復傾向にありました。一方、直近の令和 3 年（2021 年）の数値では新型コロナウイルスの流行もあり、いずれも減少しています。

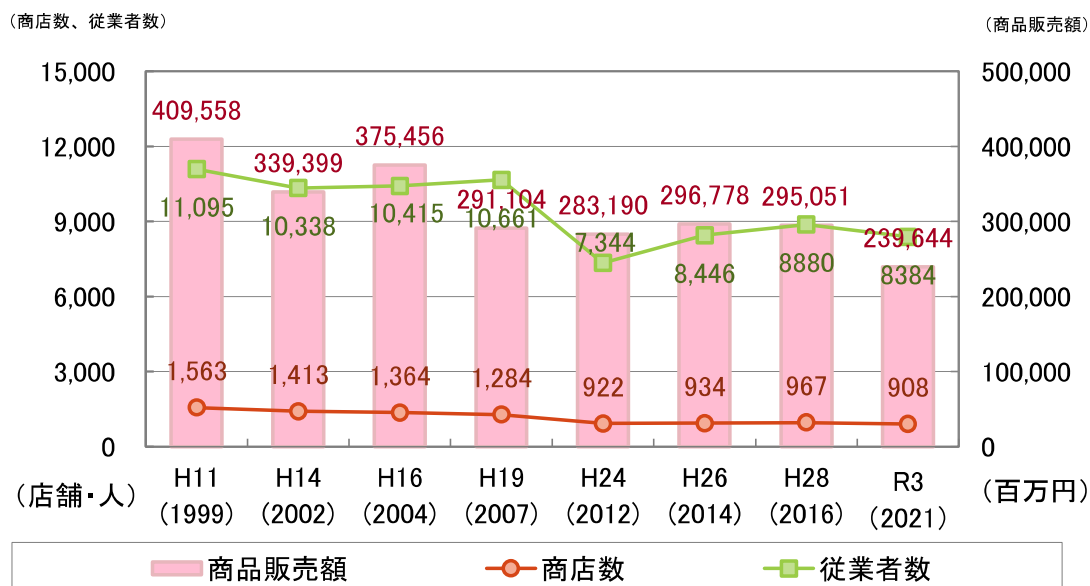


図 24 半田市の商品販売の動向

資料：商業統計調査、経済センサス活動調査 (平成 24 年、平成 28 年、令和 3 年)
商業統計調査は平成 26 年に廃止され、経済センサス活動調査に統合されたため、平成 26 年以前と調査内容が異なる。

(4) 農業

農業産出額は、近年増加傾向にあります。

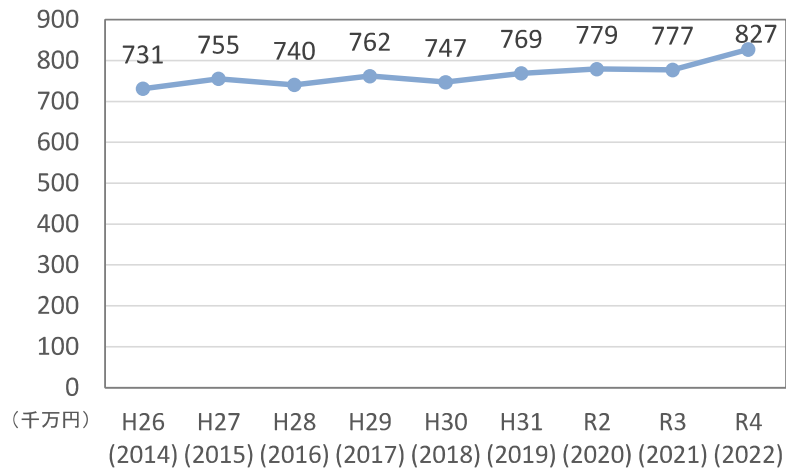
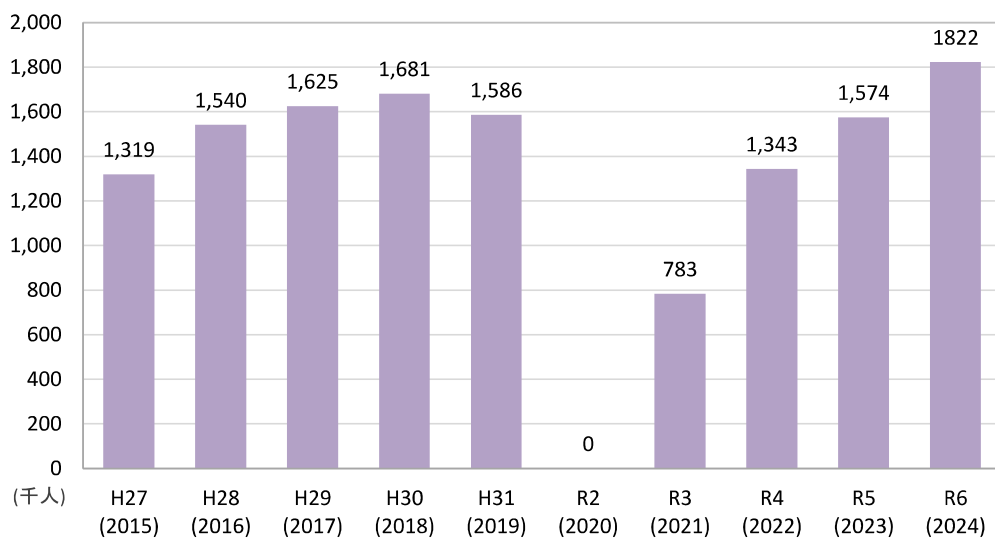


図 25 農業産出額の推移

資料：東海農政局統計情報

(5) 観光

本市では歴史・文化に関わる様々な観光施設やイベントがあり、これらの観光入込客数は増加しています。新型コロナウイルスの流行により、観光入込客数は大幅に減少しましたが、現在は新型コロナウイルスの流行前の水準を上回っています。



※主な観光施設やイベント

- | | | |
|-----------------|-----------|----------------|
| ・半田赤レンガ建物 | ・國盛 酒の文化館 | ・MIZKAN MUSEUM |
| ・半田市立博物館 | ・新美南吉記念館 | ・半六庭園 |
| ・半田運河HOTORIイベント | ・ごんの秋まつり | ・はんだふれあい産業まつり |
| ・春の山車まつり | ・いちご狩り | |

※令和2年度はコロナ禍による施設閉鎖等のため、未集計

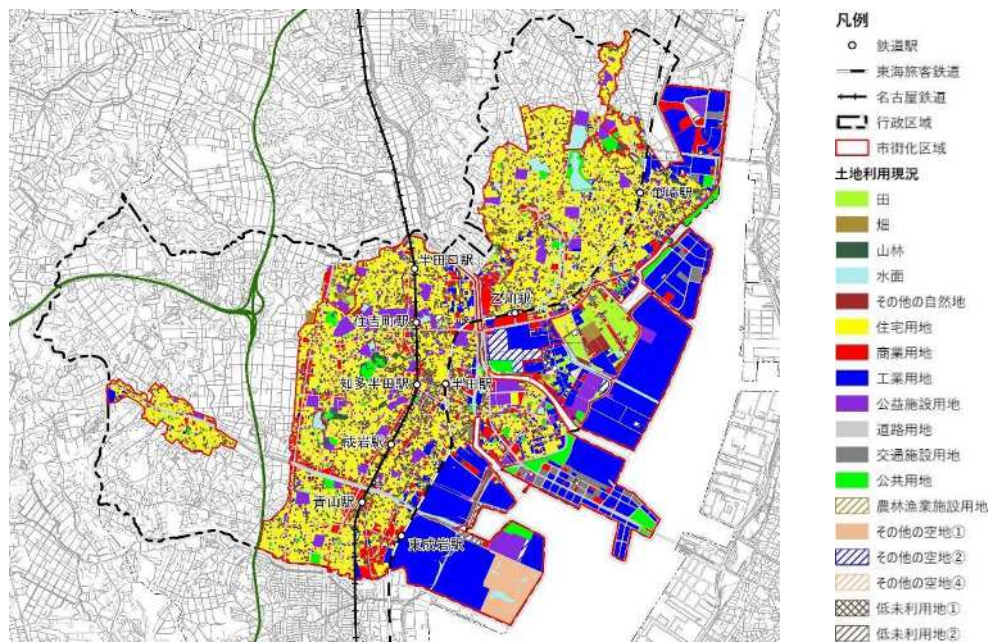
図 26 観光入込客数の推移

資料：半田市資料

1-4 都市づくりの現況

土地利用

- ・名古屋市へのアクセスが良好であり、鉄道駅周辺を中心に居住地が広がり市街地を形成しています。また、中部国際空港に近く、重要港湾である衣浦港を有し、交通の利便性が高いため、臨海部に多くの企業が立地しています。
- ・工業系用途地域で住宅用地の混在が見られるほか、空き家率は県内でも高く、駅周辺において低未利用地や空き家等があります。
- ・市街化調整区域では、農地や里山の自然が広がっている一方で、宅地化の進行や耕作放棄地が見られます。



	自然的 土地利用	住宅用地	商業用地	工業用地	公的・公益 用地等	その他	低未利用地	合計
第一種低層住居専用地域	14.1%	51.1%	2.2%	0.1%	27.4%	0.4%	4.8%	100.0%
第一種中高層住居専用地域	5.8%	54.3%	3.6%	0.4%	31.1%	0.0%	4.9%	100.0%
第二種中高層住居専用地域	3.7%	35.5%	20.3%	1.5%	34.8%	0.0%	4.2%	100.0%
第一種住居地域	6.2%	50.8%	6.5%	1.4%	29.0%	0.1%	5.9%	100.0%
第二種住居地域	5.1%	32.5%	17.0%	1.8%	37.7%	0.0%	5.9%	100.0%
準住居地域	7.8%	18.4%	26.5%	1.7%	41.0%	0.0%	4.7%	100.0%
近隣商業地域	1.3%	29.7%	20.1%	2.0%	38.7%	0.3%	8.0%	100.0%
商業地域	0.0%	25.9%	17.4%	0.8%	38.5%	5.3%	12.1%	100.0%
準工業地域	6.2%	30.8%	22.5%	12.6%	20.9%	0.5%	6.6%	100.0%
工業地域	6.6%	7.7%	18.0%	41.0%	23.5%	0.8%	2.4%	100.0%
工業専用地域	2.9%	0.0%	2.0%	64.3%	19.0%	10.2%	1.6%	100.0%

※低未利用地：建物跡地等、都市的状況の未利用地（屋根のない駐車場、ガラクタ置場 等）

図 27 土地利用の現況（市街化区域）

資料：令和 5 年 都市計画基礎調査

都市交通

(道路交通)

- ・中部国際空港や名古屋市内へ自動車専用道路でつながるなど、広域交通の利便性が高い道路網が形成されています。一方で、踏切部や臨海部の幹線道路等で慢性的に混雑しています。

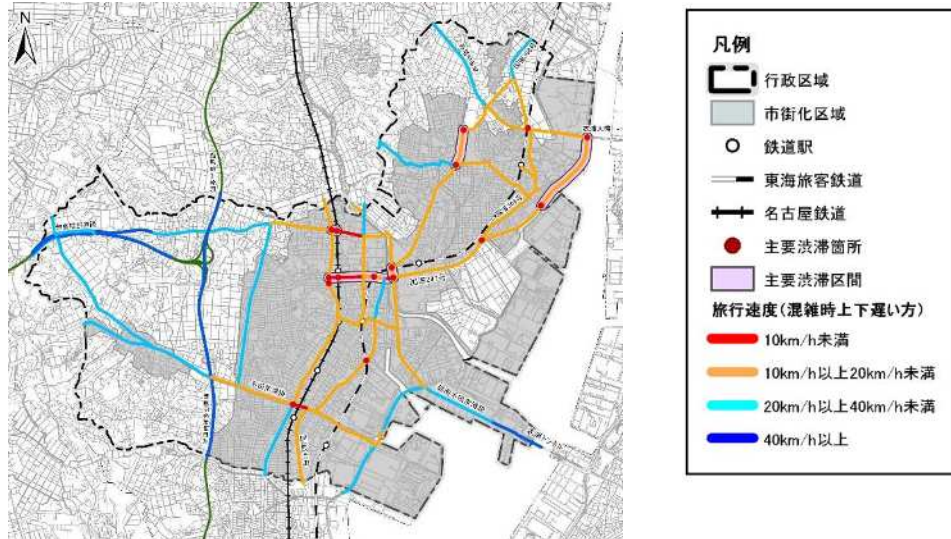
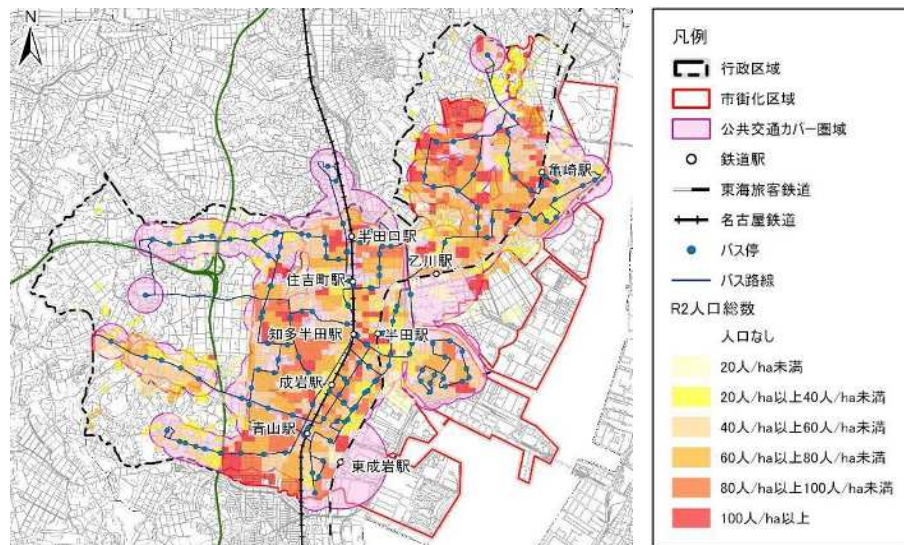


図 28 国道・県道の整備状況と混雑状況

資料：令和3年度 道路交通センサス、令和6年度愛知県道路交通渋滞対策推進協議会

(公共交通)

- ・名鉄河和線とJR武豊線の2路線の鉄道が整備され、鉄道駅が市街地に適正に配置されていることから、鉄道によるアクセスの利便性が高くなっています。
- ・知多半田駅から名古屋駅への移動が約30分と、都市間移動の利便性が高くなっています。
- ・公共交通（鉄道や知多バス、ごんくる等）は概ねの市街地をカバーしていますが、一部の市街化区域において公共交通空白地域がある状況です。



※公共交通カバー圏域：駅から半径800mまたはバス停から半径300mの範囲（令和2年10月時点）

図 29 人口分布と公共交通のカバー圏域

資料：【人口メッシュ】令和2年国勢調査

【バス路線・バス停】半田市地区交通バス 路線図&時刻表（令和7年4月時点）

Ⅱ 半田市の現況と都市づくりの基本的な課題

公園・緑地

- ・本市には都市公園が 132 箇所整備されており、そのうち 53 箇所が都市計画公園に指定されています。
- ・令和 6 年（2024 年）4 月現在の人口 1 人当たりの都市公園面積は 8.98 m²/人であり、令和 5 年（2023 年）の知多都市計画区域内の平均値よりも低くなっています。都市公園等の人口カバー率は、市全体の 84%、市街化区域の 88%と概ねの居住地をカバーしていますが、供用後、長期間経過している施設もあります。

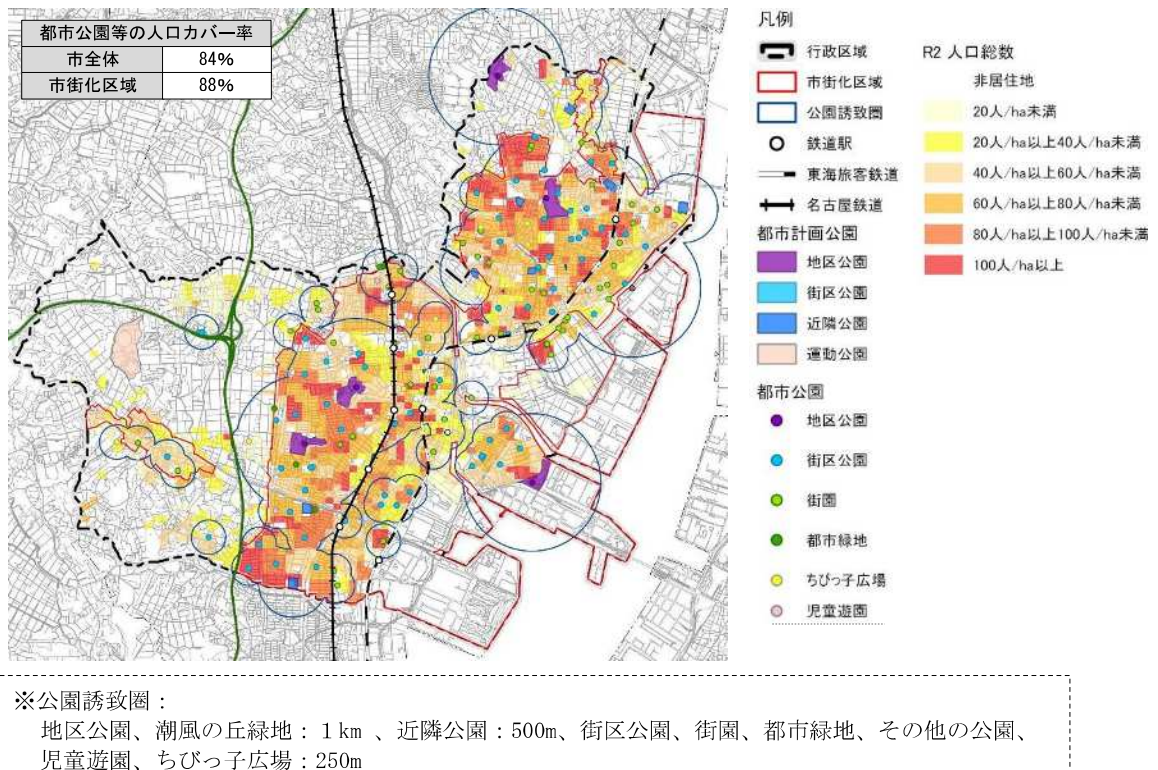


図 30 人口分布と都市公園等のカバー圏域

資料：半田市資料

下水道

- ・市街地における整備は概ね完了しています。
- ・供用後、長期間経過した管路があります。

河川・ため池

- ・治水機能や利水機能があり、市民生活や地域経済を支える重要な役割を担っています。
- ・市民の憩いの場や動植物の生育の場等として機能しています。
- ・耐震化されていないため池があります。

歴史・文化・景観

- ・山車、蔵、南吉、赤レンガに代表される歴史・文化に関する資源が数多く残っています。
- ・景観形成重点地区のさらなる景観の保全と形成が求められています。

防災・安全

- ・洪水や高潮、大規模地震による液状化や津波災害の危険性が高い居住地があります。
- ・標高が低い地域では、民間施設等との協定により緊急避難場所が設置されています。
- ・亀崎駅の東側に土砂災害特別警戒区域等の指定があります。
- ・防犯灯の設置を推進しています。

自然環境

- ・市街化調整区域では、農地や里山の自然が広がっている一方で、宅地化の進行や耕作放棄地が見られます。

港湾

- ・物流の拠点として重要な役割を果たしており、臨海部には各種企業の立地が進んでいます。
- ・ふ頭用地が不足し、荷役施設等が老朽化しています。

中心市街地

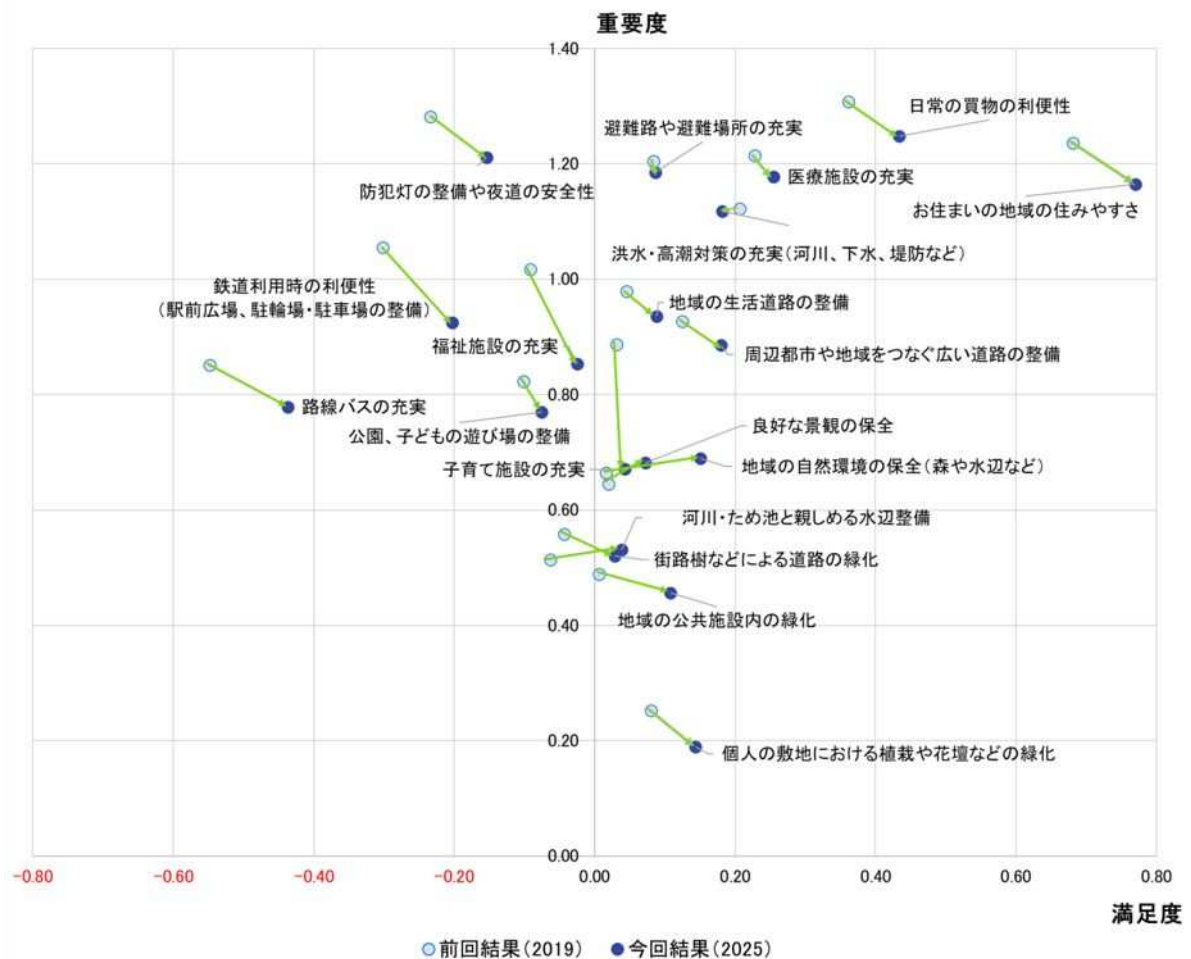
- ・基幹的な都市機能増進施設が多数立地するなど、生活の利便性が高い地域です。
- ・名鉄知多半田駅とＪＲ半田駅の２つの鉄道駅が近接して配置されており、交通利便性が高く、名鉄知多半田駅から名古屋駅へ約 30 分で移動できるため、都市間移動の利便性の高い地域です。
- ・半田運河や蔵等の歴史的・文化的資源が形成する景観が残っています。
- ・空き家等が分布しており、商業系の用途地域内の地価は約 25 年間で半減しています。

2 市民アンケート調査

令和7年（2025年）7月に、市民の生活環境の現状や、今後のまちづくりについての意向を把握するため、18歳以上の市民の中から無作為に3,500人を抽出し、郵送配布・郵送、WEB回収によりアンケート調査を実施した結果、1,126人（回収率32%）からの回答がありました。

お住まいの地域の満足度と今後の重要度

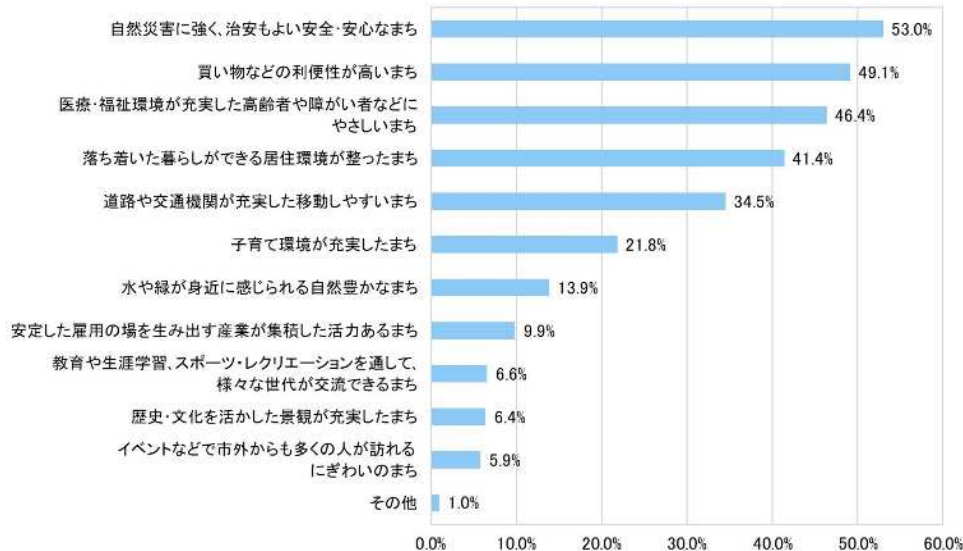
- ・「お住まいの地域の住みやすさ」は満足度や重要度が高くなっています。住みやすさの要素となる「日常の買物の利便性」や「医療施設の充実」も満足度や重要度がともに高くなっています。
- ・「避難路や避難場所の充実」「洪水・高潮対策の充実」「防犯灯の整備や夜道の安全性」といった、生活環境の安全・安心に対する重要度が高い中、「防犯灯の整備や夜道の安全性」の満足度が低くなっています。
- ・「鉄道利用時の利便性」「路線バスの充実」といった公共交通関連の項目や、「公園、子どもの遊び場の整備」といった項目の満足度が低くなっています。



※上表は満足度・重要度を点数化した平均値を示す。
 満足度) 満足：2点、まあ満足：1点、普通：0点、やや不満：-1点、不満：-2点
 重要度) 重要：2点、まあ重要：1点、普通：0点、あまり重要でない：-1点、重要でない：-2点

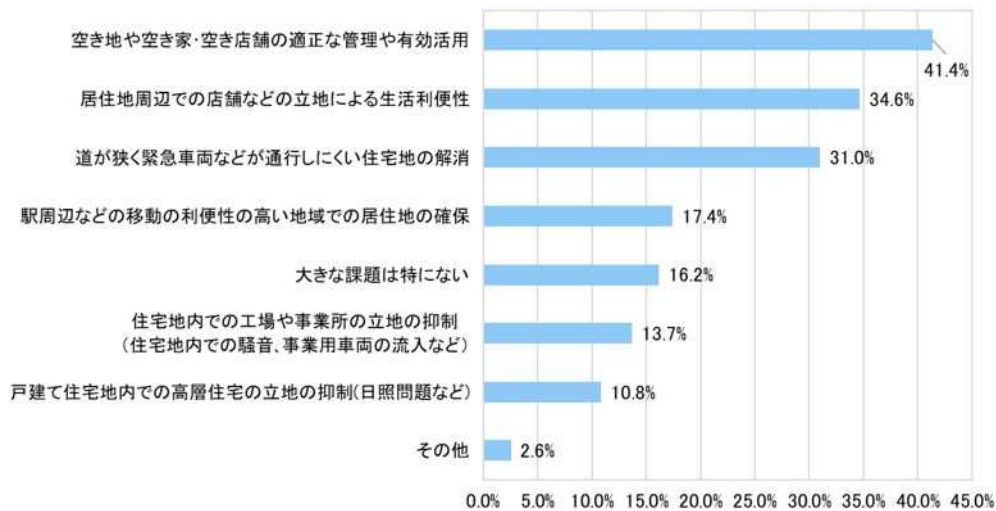
お住まいの地域のまちづくりの方向性

- ・「自然災害に強く、治安もよい安全・安心なまち」「買い物などの利便性が高いまち」「医療・福祉環境が充実した高齢者や障がい者などにやさしいまち」が多くなっています。



お住まいの地域の土地利用の方向性

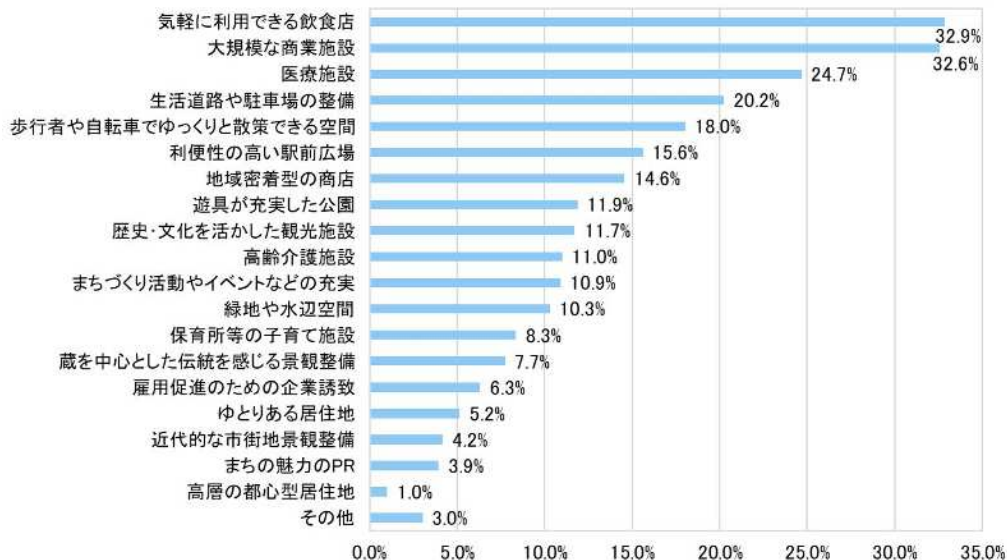
- ・「空き地や空き家・空き店舗の適正な管理や有効活用」が最も多く、次いで、「居住地周辺での店舗などの立地による生活利便性」「道が狭く緊急車両などが通行しにくい住宅地の解消」の確保が多くなっています。
- ・「空き地や空き家・空き店舗の適正な管理や有効活用」については、地域別に見ると亀崎地域や成岩地域が多くなっています。



Ⅱ 半田市の現況と都市づくりの基本的な課題

中心市街地において「快適に生活でき、多くの人が出かけたい」と思うまちづくりを推進するために重要な取組

- ・「気軽に利用できる飲食店」「大規模な商業施設」「医療施設」に対するニーズが高くなっています。



調査結果の概要

○住みやすく快適な生活環境の維持・向上が求められます。

- ・地域内での日常の買物の場や医療施設の確保
- ・建物のデザイン等の調和がとれた景観形成、緑化の推進
- ・空き地や空き家・空き店舗の適正な管理や有効活用

○安心・安全の確保が求められます。

- ・建物の耐震化などの自然災害への対策や市民の防災活動等への参画促進
- ・防犯対策の推進
- ・空き地や空き家・空き店舗の適正な管理や有効活用、生活の安全確保

○公共交通の利便性の向上や道路交通の円滑化が求められます。

- ・高齢者の移動手段の確保や公共交通の満足度の向上
- ・周辺都市や地域をつなぐ幹線道路の円滑化

○半田市特有の歴史文化や豊かな自然環境の継承・活用が求められます。

- ・山車、蔵、新美南吉、赤レンガに代表される歴史、文化的資源の保存・継承、活用
- ・自然環境の保全

○中心市街地の活性化が求められます。

- ・中心市街地における商業施設や医療施設の立地

3 前計画の取組状況

前都市計画マスタープランに位置づけられた施策のうち、この10年間で実施した主な取組と今後も継続して推進する取組を整理します。

都市づくりの現況等を踏まえ、効果的な方法による継続的な施策の推進が求められます。

■10年間で実施した主な取組

分野	取組内容
土地利用	・工業地域（州の崎町）の特別用途地域の指定
都市交通	・名鉄河和線の鉄道高架（青山駅周辺） ・駅周辺の駐輪場整備（半田口駅、成岩駅） ・県道武豊大府自転車道線の整備
公園・緑地	・公園の整備（七本木池公園、雁宿公園、任坊山公園（宮池））
河川	・河川沿いの親水空間整備（稗田川、平地川、矢勝川、神戸川）
都市景観	・景観形成重点地区における景観に配慮した道路整備（半田運河周辺地区、岩滑地区）
その他	・新庁舎の建設

■継続して推進する取組

分野	取組内容
土地利用	・幹線道路沿道やインターチェンジ周辺の未利用地を活用した産業用地の誘導 ・工業地域における住宅等の混在を避ける適正な土地利用の誘導
都市交通	・J R 武豊線の鉄道高架化の促進 ・（都）衣浦西部線の早期事業化等、幹線道路の整備促進 ・交差点や通学路等の危険箇所における安全対策の推進 ・公共交通の利便性向上に向けた取組の推進
公園・緑地	・計画的な公園の整備 ・市民との協働による維持管理の推進 ・市内の緑地の保全
下水道	・浸水対策の推進 ・既存施設の効率的な改築・更新
河川・ため池	・水辺環境の向上に向けた取組の推進
歴史・文化・景観	・景観形成重点地区における景観形成の推進
防災・安全	・地震や風水害等、地域に応じた自然災害に備えた防災対策の推進 ・地域と連携した防犯灯の設置
自然環境	・公共施設の緑化促進
港湾	・既存ふ頭の再整備と新規ふ頭の整備について関係機関への働きかけ
中心市街地	・知多半田駅・半田駅周辺の特性を踏まえたまちなみ形成や活性化 ・まちなか居住の促進

4 都市づくりの基本的課題

半田市の社会経済情勢

本市では、以下のような社会経済情勢に対応した都市づくりを推進する必要があります。

【人口・世帯】

- ・ 知多地域の中で最も人口が多い。少子高齢化が進行している。
- ・ 半田口駅東側や、半田乙川中部の土地区画整理事業区域の周辺といった、市街地整備が進み快適な生活環境が整備された場所では人口が増加している。
- ・ 人口・世帯数が半田駅北東側などで特に減少するなど、駅周辺であっても空洞化が進んでいる場所がある一方で、市街化調整区域の一部で増加している。
- ・ 駅の徒歩圏外の住宅地で高齢者や高齢者単身世帯数が増加し、移動手段の確保の問題が懸念される。

【地域経済】

- ・ 名古屋市への通勤者の居住地、周辺都市の拠点として機能している。
- ・ 製造品出荷額等や農業産出額は横ばいまたは増加で推移しているが、新型コロナウイルス流行の影響により、商業販売額等では減少している。
- ・ 観光入込客は新型コロナウイルス流行前の水準まで回復している。
- ・ 商業系の用途地域内の地価は約 25 年で半減している。

都市づくりの分野別の課題

本市の都市の現況や市民ニーズ等を検証した結果、都市づくりに関連する各分野で以下の課題があります。

分野	分野別の課題
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業・工業の活性化に資する計画的な土地利用 ・ 市街地内の建物の老朽化対策 ・ 安心して生活できる住環境の確保 ・ 空き地・空き家対策 ・ 自然環境の保全・活用 ・ 狭あい道路の解消
都市交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市計画道路の見直しと計画的な整備促進 ・ 交通安全対策の推進 ・ 踏切部や臨海部の幹線道路の渋滞対策 ・ 徒歩や自転車空間の確保 ・ 公共交通サービスの維持・改善
公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園の市民ニーズへの対応 ・ 市民との協働による維持管理の推進・継続
下水道	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水対策の推進 ・ 計画的な整備・改築
河川・ため池	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水辺環境の向上 ・ 計画的な整備・改築
歴史・文化・景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観形成重点地区における景観の保全・形成 ・ 歴史・文化等の継承と活用
防災・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模災害に対する安全性の確保 ・ 地域との連携による防災対策 ・ 地域との連携による防犯対策
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境の保全・活用 ・ 地球温暖化対策 ・ 緑化の推進 ・ 住宅地における臭気対策
港湾	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふ頭用地の確保、荷役施設等の老朽化対策
中心市街地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺の特性を活かした中心市街地の活性化 ・ 利便性の高い地域での居住促進 ・ 空き地・空き家対策による空洞化の抑制

Ⅱ 半田市の現況と都市づくりの基本的な課題

都市づくりの基本的な課題

社会経済情勢や分野別の個別課題、将来の見通しや上位計画の内容を踏まえ、以下のとおり今後の都市づくりの基本的な課題をまとめます。

課題 1 若い世代の転入・定住の促進

本市は、知多地域の拠点として、広域交通の利便性が高く、多様な都市機能が集積しており、知多半島で最も人口が多くなっています。しかし、人口減少・少子高齢化が進行する中、本市の将来を支えていく若者世代が暮らしやすい便利で快適な住環境の確保を図り、拠点となる区域への転入や定住を促進することが必要です。

課題 2 住環境の安心・安全性の確保

洪水や高潮、大規模地震による液状化や津波災害の危険性が高い居住地があり、大規模災害に対する安全性を確保することが必要です。また、老年人口が増加する中、自動車を使わなくても移動できるような公共交通ネットワークを構築するとともに、空き家の増加に伴う周辺環境の悪化を抑制し、良好な治安を確保することが必要です。

課題 3 地域経済の活性化

本市の強みである広域交通の利便性を活かしながら、産業機能の集積を図るため、企業誘致を進めることが必要です。また、臨海部等の渋滞解消を図るための計画的な道路整備等を進めることで、人・物の対流の促進を図ることが必要です。

課題 4 中心市街地の活性化

名鉄知多半田駅周辺から市役所周辺までのエリアである中心市街地には、広域的な都市機能が立地しており、生活利便性が高いことに加え、本市の代表的な観光資源の半田運河を有しています。本市の都市づくりの中心となる地域として、地域特性を活かした活性化を図ることが必要です。

課題 5 地域資源の保存・継承と活用

地域の人々によって大切に守られてきた、山車・蔵・南吉・赤レンガに代表される伝統・歴史・文化資源を多く有していますが、人口減少により、都市の衰退が懸念されます。このことから、都市の魅力を高めるために、これらの地域資源の保存・継承や活用により、優れた景観の保全・形成を図ることが必要です。

課題 6 環境保全への配慮

矢勝川や神戸川等の河川やため池、市境付近の丘陵部に広がる里山や農地等の身近な自然環境を保全し、生物多様性に配慮しながら自然との共生を図ることが必要です。また、地球環境への負荷を低減し、地球温暖化の進行抑制を図り、持続可能なまちづくりを進めることが必要です。